

令和7年度第1回上下水道経営審議会 会議録

○日 時 令和7年6月6日（金）午前10時から10時50分まで

○場 所 深川市役所 3階大会議室

○出席者 坪田 邦光 委員（深川商工会議所）＜会 長＞
遠藤 康弘 委員（きたそらち農協）＜副会長＞
安立 裕幸 委員（深川地区町内会連合会）
飯島 町子 委員（一已地区町内会連合会）
茶畑 誠一 委員（一已地区町内会連合会）
平澤 利幸 委員（納内地区町内会連合会）
清水 正勝 委員（多度志地区町内会連合会）
杉森 一沙 委員（深川地区連合会）
青野 美津子 委員（深川消費者協会）
秦 紀子 委員（公募）
青木 裕幸 委員（公募）

深川市長 田中 昌幸

○事務局 建設水道部長 藤井 紀久也
上下水道課長 美口 英憲
上下水道課主幹 木田 享
工務係主査 佐藤 大樹
庶務係長 大野 竜次
庶務係主査 竹ヶ原 知美
庶務係 菅原 健太

○会議内容 報告第1号 水道事業の現状と課題
報告第2号 今後の日程について

1 開会	「令和 7 年度第 1 回上下水道経営審議会」開会 * 事務局より、委員 15 名のうち出席 11 名で過半数に達したため審議会が成立している旨報告
2 会長挨拶	本日は大変お忙しい中、委員の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。 昨年は皆様方のお力添えをいただき、下水道使用料の改定に無事取り組むことができました。今年度は水道料金について、経営状況や今後の財政状況について、昨年度同様に議論を重ねていくことになります。 今後の水道事業の経営改善などに向けた料金のあり方について皆様方からの忌憚のないご意見やご提案をいただきながら、審議会を進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
3 市長挨拶	みなさん、大変お疲れ様です。深川市上下水道経営審議会にお集まりいただきまして、感謝申し上げます。 また日頃から坪田会長を初め皆さんの忌憚のないご意見を賜って、昨年度に下水道使用料の改定を、消費税の増税分としての改定はこれまでもありましたが、根本的な価格の部分での改定を今年の 4 月からされており、経営に対する審査そして判断という重い重責を担っていただき、その判断のもと議会での議決をいただいたところでもございますので、そういった点で大変皆さんにご苦勞をおかけしたことに改めて感謝申し上げたいと思います。また、昨今の物価高、人件費の上昇、これはこの間 30 年と言われておりますが、物価上昇あるいは人件費の上昇がほとんどない状態の中で日本の国家というものが運営をされてきたわけでありますが、この 2～3 年の急激な物価上昇、あるいは人件費の上昇ということで全てのあらゆる産業、これは公務の部分も例外ではなく上下水道を経営する企業会計という一つのその中で完結しなければならない形態の中でもそういったものの影響が非常に大きくなっているのをひしひしと感じざるを得ない状況とともに、この数年の決算状況を見てもこれまでのお金の貯めていたものを少しずつ取り崩さなければ経営できない状況が続いてきているということでありまして取り崩しの額が年々、拡大しているのが現状であります。 水道料金につきましても、過去に元々日本一水道料金が高い地域でもありますので、非常に高料金を市民の皆さんに負担していただいているということもありまして、中々料金改定の年になっても本来改定すべきところを何とか抑え続けてきた部分もありますし、10 年前の改定では水道料金を若干下げたという経緯もございます、こういった状況が今の水道事業会計の中に非常に重くのしかかっているというのが現状であります。 この内容につきましては本日この後、経営状況等々の説明をさせていただいて今の状況がどのような実態であるということを皆さんに度理解いた

だき、そのことを通じ市民の皆さんにもご理解を賜りたいというふうに考えております。この審議会の中でそういった状況を十分に考慮していただき、そして安心安全な水を将来にわたって確実に企業会計という水道事業を行う深川市として維持できる、その形のために、何とか現段階での考えをいわれる答えを導き出さなければならないというのを強く感じているところでもありますので、ぜひそう言った部分につきましては、皆さんとその状況を共有していただき、そしてあるべき姿をぜひ導き出していただければというふうに思っているところでございます。

ぜひ皆さんの大変重い任務となるというふうにも認識しておりますが、その点についてはこの全体のことをしっかり考えなければならない、とは言いつつ、さりとて、やはり個々に帰っていきますとそれぞれの家庭の料金がどうなるかという非常に皆さんの一番興味の深いところでもありますので、そういったところを判断していただくことになります。

ぜひ皆さんの忌憚のないご意見、そして坪田会長を初め皆さんの真摯な議論をいただき、そして来年に向けてこの料金がどうあるべきか、というところを導き出していただくことをお願いし、ごあいさつとさせていただきます。本日以降よろしくお願い申し上げます。

4 委員の紹介

- 事務局より資料の訂正説明
- * 審議内容、所管事務調査の修正により資料「今後の日程について」を差替次に変更のあった委員を紹介

5 議事

- 【報告事項】
- 報告第1号 水道事業の現状と課題
- * 事務局より、資料「水道事業の現状と課題」に沿って説明

<質疑応答>

資料1「水道事業の現状」について

委員 資料7ページ、水道料金の改定経過について、平成8年以降、29年間にわたって消費税の増税以外での値上げ改定を行わなかった理由と、今までどのように対処してきたのか。

事務局 水道事業は5年毎に料金の見直しを行っており、平成8年度の料金改定後は、給水人口も増え、料金収入は平成15年度に5億8,356万円となった。しかし、平成15年度をピークに料金収入は減り続け、令和6年度は4億2,511万円と毎年平均750万円減少したことになる。

平成18年と平成23年には、企業団の受水費が下がったこともあったが、将来の老朽した施設の更新のため、水道料金の値下げは行わなかった。

平成28年度は第5次拡張事業の起債の償還が平成30年度に終えること

から、償還金の支出が減少するため、値下げ改定した。

令和 3 年度は、新型コロナウイルスの流行もあり、料金改定による使用者の影響を考慮し料金を据え置いた。なお、値上げの時期を先延ばしにするため、一部市からの繰出金で補てんしている。

人件費の削減や補てん財源を運営資金の不足分に充てるなどし、料金値上げをせずに経営を維持してきた。

委 員 資料 10 ページ、管路の老朽化について、最近よく話題となっている水道管の漏水事故だが、ここ数年間の深川市で起きた漏水事故の件数や修理に要した費用は。

事務局 漏水件数と修繕費用について、令和 4 年度は 27 件で 893 万円、令和 5 年度は 24 件で 1,059 万円、令和 6 年度は 23 件で 1,789 万円となっている。

また、漏水については、主に委託業務による調査や一般市民からの通報により漏水箇所の特定をしており、その都度、修繕をしているが、管の老朽化が進んでいるため、漏水箇所を直しても、また次に別の場所で漏水が発生するなど、思うように水量が減らない状況となっている。

委 員 資料 11 ページ、給水原価と供給単価の推移で、販売価格が原価割れしているとのことだが、どの程度料金を上げれば原価を回収できるのか。

事務局 令和 6 年度で計算したところ、給水収益を 1 億 2,500 万円増額すると供給単価が 284 円から 367 円となり原価をわずかに上回る。水道料金を平均約 30%増額した場合に、原価を回収できる見込。

今後、受水費の増額や維持管理費等の増により、さらに原価が高くなるのが予想されるので、原価を回収するためにはそれに伴い料金を上げる必要がある。

委 員 資料 14 ページ、令和 6 年度の決算状況で経営状況が苦しいことは理解できるが、今までに所管として収支の改善など、企業努力に取り組んだ事例はあるか。

事務局 まず、昨年度より未払いとなっている料金の滞納整理の強化に取り組んでおり、昨年の実績としては 27 件の給水停止を行い、負担の公平性を確保している。

また、漏水調査の実績として過去 5 年間で数量実績としては約 80 万トン発見し、これを修繕したことで、年間約 5,600 万円分の受水費が節約された。

更に道路工事や下水道工事との同時施工による費用の抑制や、管の更新時の口径のスペックダウンによる費用の削減も行っている。

委 員 資料 14 ページ、収益的収支、資本的収支の両方に補填財源を充てているが、現状では、あと何年ぐらいで財源の底がつくのか。

事務局 令和 6 年度末で 2 億 5,567 万円ある補填財源は、想定範囲だが令和 8 年度末では約 4,700 万円と減少し、令和 9 年度末には約 5,700 万円の資金不足となる見込。大きな要因としては、受水費の単価の改定による費用の増額や料金収入の減、資材費・人件費の高騰による維持管理費の増額などによるもの。

委 員 水道は非常に大事なもので、それを維持していくにはお金の負担が必要ということは重々承知しているが、その負担についても限度がある。

それを踏まえた中で、人口が昔の 5 万人いた中での経営と今の 1 万 8 千人の経営とでは全然負担額が違ってきている。料金の値上げだけではなく、深川市の人口を増やすような手立てを一緒に進めていかないと限界が出てくる。

人口の維持拡大を目指す対策等をわかる範囲で聞かせてほしい。

事務局 日本全体で人口が減ってきている状況で、一例とすると企業誘致とか移住促進等が考えられる。水道の業務とは離れるが市全体の政策として人口を増やしていく取り組みが必要と考えている。

委 員 資料 10 ページ、管路の老朽化について、更新が進んでいないのは予算がないためか。また目標となる更新率があるのか。

事務局 更新が進んでいない理由としては、予算がないことも理由の一つだが、予算がない中でも道路工事や下水道工事と一緒に更新していく等の工夫をしている。

また、目標については特段設けていないが、安価で更新できるように考え少しでも更新率が高くなるよう検討していく。

報告第 2 号 今後の日程について

* 事務局より、資料「今後の日程について」説明

- ・水道料金の見直しについて諮問、審議、答申を計 4～5 回で行い 12 月に議会へ議案提出
- ・市議会への情報共有のため所管事務調査を適宜実施
- ・第 2 回を 7 月 15 日(火)午後 1 時 30 分から市役所で開催

6 閉会

「令和 7 年度第 1 回上下水道経営審議会」閉会